

受験番号		名前	
------	--	----	--

平成 29 年度 大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト

幼稚園・小学校共通 教科専門 問題集 (択一式)

受験中の心得

- 1 試験時間中は、すべて試験監督の指示に従ってください。
- 2 試験開始後、まず名前を記入し、受験番号を次の〔記入例〕に従って黒くぬりつぶしてください。

〔記入例〕

名前 大阪 太郎

受験番号

A	1	B	2	C	3	D	4	E	5	F	6
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

数字を記入し、それぞれの位をマークしてください。

A	1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B	2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C	3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D	4	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E	5	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
F	6	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- 3 答は解答用紙に記入してください。
- 4 問題はいずれも五つの答えがでていますが、そのうち最も適切と思われる答えを一つ選んで、解答用紙の問題番号の右にある五つの数字のうち一つを次の〔解答例〕のように黒くぬりつぶしてください。

〔解答例〕 1 日本の首都はどこか。1～5から一つ選べ。

1 京都 2 奈良 3 東京 4 名古屋 5 大阪

この場合、正答は「3 東京」なので、解答用紙の問題番号1の右横に並んでいる③を黒くぬりつぶせばよいのです。

- 5 間違ってぬりつぶしたときは、消ゴムでよく消してください。
- 6 問題は24問(幼稚園、国語、社会、算数、理科)となっています。
- 7 時間は90分です。
- 8 途中退室はできません。
- 9 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 10 計算を必要とする場合は問題集の余白を利用してください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1 幼稚園教育指導資料第1集(文部科学省 平成25年7月改訂)には、指導計画の評価・改善のポイントとして、幼児の発達の理解と教師の指導の改善について書かれているが、その内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 指導計画におけるねらいや内容は、学級全体の発達を見通して立案しますので、幼児一人一人の発達の状況を捉えるとともに、学級全体の幼児の発達への理解が必要です。

イ 幼児の発達を十分理解するには、幼児の活動の姿を多様な視点から捉えることが必要になります。その際、まず捉えたいことは、幼児の遊びへの取り組み方です。どのような遊びをしているかだけでなく、その中で何を楽しみ、どのような経験をしているかについて捉えていきます。

ウ これまでの指導の経過について振り返ることで、長い期間から見た幼児の成長や変化に気付くことができます。幼児の育ちは、短期間で急激に成長するのではなく、長期間にわたり少しずつ育っていくものです。

エ 幼児の変化を的確に把握し、幼児の興味や関心を大切にしながら、活動の充実に向けて、あらかじめ環境の構成を考えておき、後は幼児の動くままに任せる状況をつくることが求められます。

オ 幼児とのかかわりを通して一人一人の特性や課題を把握し、目前で起こっている出来事が幼児にとってどのような意味をもつものであるのか捉えなければなりません。幼児と生活を共に作りながら、幼児の思いに共感したり、認めたり、励ましたり、ときには必要な助言や指示をしたりするなど、様々な援助が必要です。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	×	×	×	○
2	×	×	○	○	○
3	×	○	○	○	×
4	○	○	×	×	○
5	×	○	○	×	×

- 2 次の文中の下線部について、幼稚園教育要領解説（平成 20 年 7 月）第 3 章第 2 「2 子育ての支援」の記述として正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5 から一つ選べ。

幼児の家庭や地域での生活を含め、生活全体を豊かにし、健やかな成長を確保していくためには、幼稚園が家庭や地域社会との連携を深め、地域の実態や保護者及び地域の人々の要請などを踏まえ、地域における幼児期の教育のセンターとしてその施設や機能を開放し、積極的に子育てを支援していく必要がある。

－ 中 略 －

さらに、子どもへのかかわり方や自分の子育てについて悩みや不安を感じている保護者に対しては、その思いを十分に受け止めながら、保護者自身が自分の子育てを振り返るきっかけをつくったり、子育てについて学ぶ場面をつくったりするなどして、家庭の教育力の向上につなげていくことが大切である。

このような子育ての支援は、幼稚園の園児の関係者に限らず、広く地域の人々を対象として行うことが大切である。例えば、子育て相談や未就園児の親子登園などを通じて、未就園児と保護者との温かなつながりがより深まることは、幼稚園入園後の生活をより豊かなものとしていく。さらに、未就園児の親子登園は、幼稚園への円滑な接続に資するという側面もある。このような意義も踏まえ、幼稚園は、園児に限らず地域の幼児の健やかな成長を支えていくことが大切である。

また、子育ての支援活動は多様であるが、保護者などのニーズに応じ、できることから着実に実施していくことが必要である。そのためには、教育課程に基づく活動を、子育て支援を中心としていく必要がある。

幼稚園の子育ての支援活動の実施に当たっては、園内研修や幼稚園全体の教師間の協力体制の整備などの園内の体制整備を整えるとともに、他の幼稚園・小学校や保育所・児童相談所などの教育・児童福祉機関、子育ての支援に取り組んでいる NPO 法人、地域のボランティア団体などの関係機関との連携及び協力も大切である。例えば、複数の幼稚園が共同で子育ての支援講座を開催したり、NPO 法人や地域のボランティア団体の協力を得ながら子育ての支援活動を展開したりすることなどがある。

なお、保護者の養育が不適切である場合や家庭での育ちの状況が気になる子どもがいた場合の保護者支援については、子どもの最善の利益を重視しつつ、幼稚園のみで抱え込むことなく、市町村などの関係機関と連携して、適切な支援を行っていくことも大切である。特に、保護者による児童虐待のケースについては、児童相談所などの関係機関との連携が必要となるが、プライバシーを侵害する恐れのある時は、通告をせずに支援を行うことが必要である。

－ 後 略 －

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	×	○	×	○	○
2	○	×	×	○	○
3	×	○	○	×	○
4	○	○	○	×	×
5	○	×	○	○	×

3 次のア～オの各文のうち、幼稚園について定めている関係法規等に関する記述として、誤っているものはどれか。1～5 から一つ選べ。

ア 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

イ 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

ウ 幼稚園に入園することのできる者は、満三歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。

エ 幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、三十九週を下つてはならない。

オ 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を教育し、幼児の健やかな成長のために適当な援助を与え、その心身の発達を助長することを目的とする。

- 1 ア
- 2 イ
- 3 ウ
- 4 エ
- 5 オ

4 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成20年7月）領域「人間関係」の内容の取扱いについての記述として正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼児一人一人のよさを生かしながら協同して遊ぶようになるためには、集団の中のコミュニケーションを通じて共通の目的が生まれてくる過程や、幼児が試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程、いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切に受け止めていくことが重要である。

イ みんなで一緒に活動する中では、自分の思いと友達の思いが異なることもあり、ときには自己主張がぶつかり合い、ある部分は友達の思いを受け入れたりしながら活動を展開していくこともある。

このように、幼児同士が試行錯誤しながら活動を展開していくようになるが、大切なことは、幼児同士が共通の目的を実現できるかどうかである。

ウ 人としてしてはいけないことに対しては、自分が何をやったのか、それがよいことなのか悪いことなのか自分なりに考えさせ、教師は善悪を明確にせず、幼児が自分なりに考えられるように援助することが重要である。

エ 幼児の行動を見守りながら、適切な援助を行うためには、教師と一人一人の幼児との間に信頼関係をつくり出し、同時に、幼児の言動や表情から、その幼児が今何を感じているのか、何を実現したいと思っているのかを受け止め、幼児が試行錯誤しながら自分の力で課題を乗り越えられるようにしていくことが必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	×	×
2	○	×	○	×
3	×	×	○	○
4	○	○	×	○
5	○	×	×	○

- 5 次の文章は、入園して間もない満3歳児5月の初めての集団生活の事例1と、4歳児12月の音楽に触れて遊んでいる事例2である。幼稚園教育要領（平成20年3月告示）に照らし、事例1においては入園間もない幼児が、新たに始まる幼稚園生活において安定感を得られるようになるため、事例2においては幼児の表現活動において、それぞれふさわしい教師のかかわりをA、Cにおいて選択し、その教師のかかわりに関する説明としてふさわしいものをB、Dにおいて選択したとき、正しいものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

＜事例1＞（満3歳児 5月）

満3歳児のK児は、5月に3歳児の学級に入園した。初日、K児は幼稚園に来るのがうれい様子で、母親からすぐに離れて遊びだす。しかし、しばらくして、母親と毎日遊んでいた隣の公園を見て「公園に行きたい」と泣き出す。入園してみて、幼稚園生活が、これまでの母親との家庭生活とは異なることに気付いたようだ。

担任は、保育室にある遊具を手にしてK児に差し出し、K児が安心感をもつように働き掛けたが、泣きやまない。近くにいた主任がK児に、「どうしたの？」と声を掛けると、K児は抱きついてきた。主任は、K児を抱きながら幼稚園内をしばらく歩くことにした。この日は、他の3歳児の降園よりは早めに、保護者に迎えに来てもらう。

二日目になると、K児は保育室の人形に興味を示し、しばらく抱きかかえている。担任が、砂場に誘うと、少し一緒に遊ぶ。しかし、他の幼児がその担任に話し掛けてくると、担任をとられそうに思ったのか、またすぐに泣き出してしまう。担任は、さっきまでK児が抱きかかえていた人形を持ってくる。しばらくは、K児はその人形を抱き落ち着いていたが、次第に不安そうな顔をして動かなくなってしまった。

主任がK児のそばに行くと、K児が抱きついてくる。主任は、保育室の隅の静かな場でK児を膝に乗せ、しばらく二人きりで話す。給食の時間となる。

A＜事例1における教師のかかわり＞

ア. 「今日のご飯は何か。見てこようかな」と主任が言うと、K児は「一緒に行く」と膝から降りついてくる。手をつないで給食室の中を見ていると、K児が主任に「先生と一緒に食べたい」と言うので、それに応じることにした。

イ. 「給食が始まるから、そろそろみんなのところに行っておいで」と主任が言うと、K児は主任に「行かない。先生とここにいる。」と言ったが、主任は担任のところへK児を連れて行った。

B<事例1における教師のかかわりに関する説明>

ウ. 幼児が安定感を得るということは、入園間もないこの時期、幼稚園での生活に幼児を慣れさせ、早くクラスの一員として生活させることである。そのために教師は、幼児一人一人の置かれている状況にかかわらず、担任のそばで生活ができるように働きかけることが重要である。

エ. 幼児が安定感を得るということは、単に泣かないということではない。幼稚園で安心して過ごすことができ、大まかな幼稚園生活の流れが分かり、その幼児のありのままの姿を出せることである。そのためには、教師が幼児一人一人の要求や欲求に応じて心のよりどころとなることが重要である。

<事例2> (4歳児 12月)

L児がカセットデッキで音楽をかけ、タンブリンを打っていた。その音を聞いて、M児とN児もタンブリンを持って来て、それぞれ自分のリズムで打ち始めた。L児が「ちょっと、合わせてよ!」と怒ったように言うと、他の二人は、L児の打ち方をまねて打っていた。しばらくしてM児が「Lちゃんのまねばかりでつまんない」と言う。L児は「じゃあいいよ、次はMちゃん。交代ね」と交代して打つことになった。リードする幼児の打ち方により曲の感じが違って聴こえる。三人三様のリズムであり、その変化が面白い。

C<事例2における教師のかかわり>

オ. 教師もその場において、一緒にリズムにのって体を動かし、変化を楽しむことにした。三人も、教師のからだの動きに合わせて動く。リズムの変化の面白さを共感しているようだ。それから教師が「何だかとっても気持ちがいい楽しい音楽が出来たのね」と言いながら、かたわらに椅子を持ってきて座る。

カ. 教師は、みんなの音を聞いて、「Lちゃんのタンブリンの打ち方とってもいいよね。じゃあLちゃんの打ち方に決めてみんなでもやってみよう」と言い、一つのリズムに合わせて演奏ができるように、手本を見せながら幼児一人一人に、タンブリンの打ち方を丁寧に教える。

D<事例2における教師のかかわりに関する説明>

キ. 教師は、幼児の作り出すリズムを一つに決めて、上手に演奏ができるように指導することで、幼児の表現する意欲を高めている。正しいリズムで楽器を上手に演奏できるようにすることは、この幼児期に大切なことであり、教師は、幼児一人一人に根気強く指導することにした。

ク. 教師自身が、幼児の作り出すリズムによって体を揺り動かしたり、リズムの変化を楽しんだりしていることが、リズム遊びを楽しむ幼児の活動を生み出している。教師は、幼児たちの奏する音楽を聴くという役割をとりながら、幼児たちが友達とリズムを合わせながら表現することを支えることにした。

	A	B	C	D
1	イ	ウ	オ	ク
2	ア	エ	オ	ク
3	ア	ウ	カ	キ
4	イ	ウ	カ	キ
5	ア	エ	カ	キ

6 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成20年7月）領域「表現」の内容と内容の取扱いについての記述として、誤っているものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼児は、生活の中で体験したことや思ったことをかいたり、様々なものをつくったり、それを遊びに使ったり、飾ったりして楽しんでいる。幼児の場合、必ずしも、初めにはっきりとした必要性があって、かいたり、つくったりしているのではない。

イ 教師は、幼児が自分でかいたり、つくったりすることを楽しみながら、次第に遊びのイメージを広げる姿を捉え、その幼児なりの楽しみや願い、遊びのイメージを大切にして、幼児の表現技能を習得させることが重要である。

ウ 幼児が表現する楽しみや意欲を十分に発揮するためには、教師が特定の表現活動を繰り返しさせるとともに、幼児が幼稚園生活の中で自信をもって表現する場面を作り、表現を豊かにする環境としての遊具や用具などを指導の見通しをもって準備したり、他の幼児の表現に触れられるように配慮したりすることが大切である。

エ 幼児が心に感じていることは、それを表現する姿を通して他の幼児にも伝わり、他の幼児の心に響き、幼児同士の中で広がっていく。このように、幼児同士の表現が影響し合い、幼児の表現は一層豊かなものとなっていく。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | ア | ウ |
| 2 | ア | イ |
| 3 | イ | ウ |
| 4 | ア | エ |
| 5 | イ | エ |

7 次の各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成 20 年 7 月）領域「環境」の内容についての記述として正しいものの組合せはどれか。1～5 から一つ選べ。

ア 幼児は、目に見えるものだけではなく、見えないものと対話し、幼児の遊びの中に取り入れている。例えば、風の動きを肌で感じ、自分で作った紙飛行機や凧などを少しでも高く、遠くに飛ばそうと高い所を見付け、飛ばしたり、風の向きを考えたりして遊んでいる。

このような遊びにより、幼児の自然などの身近な事象への関心が高まるようにするためには、自然の事象についての知識を得ることを目的とした遊びを取り入れていくことが大切である。

イ 幼児が、初めはウサギを人間の赤ちゃんのように抱き、語り掛けることもある。生き物を擬人的に理解し、扱ったりしている場合には、次第に人とは違うその生き物の特性が分かるようになり、その生き物が過ごしやすい飼い方にも目を向けるようにすることが大切である。

ウ 幼児が生き生きと数量や図形などに親しむことができるように環境を工夫し、援助していく必要がある。

数量や図形についての知識だけを単に教えるのではなく、生活の中で幼児が必要感を感じて数えたり、量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだり、積み木やボールなどの様々な立体に触れたりするなど、多様な経験を積み重ねながら数量や図形などに関心をもつようにすることが大切である。

エ テレビやコンピュータなど情報機器の利用は、心身の健やかな育ちに少なからず好ましくない影響を与えることもあるので、特に幼児期の発達に害を及ぼすことから活用すべきではない。幼児期の正常な発達のためには、直接体験することが重要であることを踏まえ、さまざまな自然環境や事象を活用することが大切である。

オ 大人には単調な繰り返しに見えることが、幼児にとっては重要な意味をもっている場合もある。このような幼児なりの物とのかかわりを十分に楽しむことが大切であるが、ときには他の幼児が工夫していることに注目するよう促したり、また、ときには教師自らが工夫の仕方を示したりするなど、いろいろな物に興味をもってかかわる機会をつくることも必要である。

- 1 ア イ エ
- 2 イ ウ オ
- 3 ア ウ オ
- 4 ア エ オ
- 5 イ ウ エ

8 次の各文のうち、幼児期運動指針（幼児期運動指針策定委員会 平成24年3月）の「2 幼児期における運動の意義」についての記述として誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼児期は、神経機能の発達が著しいものの、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上するとはいえない。そのため、周りの状況の的確な判断や予測に基づいた行動する能力を身に付けることで、けがや事故を防止することにもつながる。

イ 幼児期に適切な運動をすると、丈夫でバランスのとれた体を育みやすくなる。特に運動習慣を身に付けると、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高く、肥満や痩身を防ぐ効果もあり、幼児期だけでなく、成人後も生活習慣病になる危険性は低くなると考えられる。

ウ 幼児にとって体を動かす遊びなど、思い切り伸び伸びと動くことは、健やかな心の育ちも促す効果がある。また、遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感、体を活発に動かす機会を増大させるとともに、何事にも意欲的に取り組む態度を養う。

エ 幼児期には、徐々に多くの友達と群れて遊ぶことができるようになっていく。その中でルールを守り、自己を抑制し、コミュニケーションを取り合いながら、協調する社会性を養うことができる。

オ 運動を行うときは状況判断から運動の実行まで、脳の多くの領域を使用する。すばやい方向転換などの敏捷な身のこなしや状況判断・予測などの思考判断を要する全身運動は、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効であると考えられる。

- 1 ア
- 2 イ
- 3 ウ
- 4 エ
- 5 オ

[9～11]

次の文章を読んで、問い9～11に答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：『学びとは何か ― (探究人) になるために』今井 むつみ／著 株式会社岩波書店
209 ページ1行目から 211 ページ1行目まで

9 本文中の空欄ア～オに入る言葉の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	具体	抽象	具体	抽象	具体
2	抽象	具体	具体	抽象	具体
3	抽象	具体	具体	抽象	抽象
4	具体	抽象	抽象	具体	具体
5	抽象	具体	抽象	具体	抽象

10 本文中の空欄カに入る言葉として正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

- 1 新しい知識
- 2 新しい情報
- 3 新しい遊び
- 4 新しい世界
- 5 新しい基準

11 本文で述べられている内容として、最も適切な組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 私たちは目にした世界をある一定の光や環境のもとで切り取り、自分の解釈を加えて「心で観た世界」を描くことから、言語は究極の象徴だと言える。

イ ことばと象徴能力は遊びを仲介にしていっしょに発達していくことから、子ども時代は「ごっこ遊び」に取り組ませる必要がある。

ウ 子どもは「ごっこ遊び」を通じて、ことばを学ぶために必要な世界の様々な様相を切り取り象徴化することを試しながら、モノを象徴的に扱う能力を発達させていく。

エ 遊びの効用にはいろいろあるが、人との社会的な関係の構築や、運動能力の発達以上に、知性の発達が子どもの時の遊びの効用としては重要なものである。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 イ・ウ
- 4 イ・エ
- 5 ウ・エ

- 12 小学校第4学年の国語の授業で、「『読書新聞』でお気に入りの物語を説明しよう」という単元を設定した。その学習活動の概要を次に示している。次のア～キの各文について、小学校学習指導要領（平成20年3月告示）に照らし、この単元全体で指導する事項や留意点に関する記述として最も適切な組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

単元名 「『読書新聞』でお気に入りの物語を説明しよう」（全8時間）	
単元計画（全8時間）	
学 習 活 動	
第 一 次 （ 2 時 間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ。 ・ 教材文の作者が書いた物語の読み聞かせを聞き、印象に残ったところ、心がひかれる場面などについて紹介し合う。 ・ 教師自作の読書新聞のモデルの紹介を聞き、自分のお気に入りの物語を読書新聞で紹介しようというめあてをもつ。 ・ 自分の好きな本を集めて、並行読書していく。
第 二 次 （ 3 時 間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文を読み、読書新聞を作る。 ・ 教材文を読み、気になったところ、好きなどころを紹介し合う。 ・ 読書新聞で説明したいことを確かめながら繰り返し読んで記事を書く。 【読書新聞作りのための読みの視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじ ・ お気に入りの場面（場面が大きく変わる瞬間） ・ 主な登場人物の性格・気持ちの変化 ・ 美しい情景描写 ・ 自分のお薦めの叙述 ・ 記事を台紙に貼り付けて、教材文のおもしろさを説明する読書新聞を作る。
第 三 次 （ 3 時 間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな本を説明する読書新聞を作る。 ・ 自分の好きな物語を選び、読書新聞の割り付けを考える。 ・ 物語を読み返しながら、読書新聞の記事を書く。 ・ 読書新聞を張り出し、読んで感想を述べ合う。

- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めるように指導する。
- イ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むように指導する。
- ウ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むように指導する。
- エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりするように指導する。
- オ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むように指導する。
- カ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりするように指導する。
- キ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むように指導する。

- 1 ア・イ・キ
- 2 エ・オ・カ
- 3 イ・エ・キ
- 4 ウ・エ・オ
- 5 ア・ウ・カ

- 13 次のア～エの表は、2013年のイギリス、フランス、ドイツ、イタリアの各国における商品の分類別輸出額（上位5位まで）を示したものである。これらの表と国の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア	
商品	輸出額（百万ドル）
機械類	134,447
自動車	34,971
医薬品	24,922
衣類	23,729
石油製品	21,645

イ	
商品	輸出額（百万ドル）
機械類	393,437
自動車	236,975
医薬品	75,108
精密機械	56,199
金属製品	46,039

ウ	
商品	輸出額（百万ドル）
機械類	111,534
航空機	56,423
自動車	44,820
医薬品	37,731
鉄鋼	16,099

エ	
商品	輸出額（百万ドル）
機械類	103,199
金（非貨幣用）	80,230
自動車	48,968
医薬品	32,868
原油	29,794

〔世界国勢図会 2015/16 より作成〕

- | | ア | イ | ウ | エ |
|---|------|------|------|------|
| 1 | イタリア | ドイツ | フランス | イギリス |
| 2 | フランス | イタリア | イギリス | ドイツ |
| 3 | イタリア | ドイツ | イギリス | フランス |
| 4 | イタリア | イギリス | フランス | ドイツ |
| 5 | ドイツ | イタリア | イギリス | フランス |

14 次の各文のうち、江戸時代における学問や文化に関する記述として、誤っているものの組合せはどれか。1～5 から一つ選べ。

- ア 伊能忠敬は、全国を測量して「大日本沿海輿地全図」の編纂に従事した。
- イ 本居宣長は、国学を研究し、「古事記伝」を著した。
- ウ 緒方洪庵は、鳴滝塾を大坂に開き、蘭学を教えた。
- エ 杉田玄白や前野良沢が、「ターヘル＝アナトミア」を翻訳し、「解体新書」を完成させた。
- オ 歌川広重は浮世絵師で、「富嶽三十六景」を作画し、人気絵師となった。

- 1 ア・イ
- 2 イ・エ
- 3 ア・ウ
- 4 エ・オ
- 5 ウ・オ

15 次のア～オの各文にある「この王朝」の組合せとして正しいものはどれか。1～5 から一つ選べ。

- ア 菅原道真は、この王朝の擾乱や新羅海賊による航海の困難などを理由に、この王朝への使いの停止を要請した。
- イ 平清盛は、この王朝との貿易や海上交通に深い関心を示し、摂津大輪田泊の改修を行って、この王朝の船を入航させた。
- ウ この王朝は、勘合をもった船のみに貿易を許可し、室町幕府とも貿易を行った。
- エ 小野妹子は、この王朝への使いとして、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す、恙無きや」(原漢文)と記された国書を提出した。
- オ 文永の役、弘安の役は、この王朝から日本への2回にわたる来攻のことである。

- | | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 隋 | 明 | 唐 | 元 | 宋 |
| 2 | 唐 | 明 | 宋 | 隋 | 元 |
| 3 | 隋 | 宋 | 明 | 唐 | 元 |
| 4 | 唐 | 宋 | 明 | 隋 | 元 |
| 5 | 唐 | 明 | 元 | 隋 | 宋 |

16 小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）社会 第 6 学年の「内容の取扱い」において、「児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産の重点の置き方に工夫を加えるなど、精選して具体的に理解できるようにすること。」と記されており、人物の働きを通して学習できるよう指導することとされている。次の各文は、小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）社会における、第 6 学年の「内容」の一部であるが、これらのうち「内容の取扱い」において、人物の例示がされていないものはどれか。1～5 から一つ選べ。

- 1 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。
- 2 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。
- 3 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること。
- 4 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。
- 5 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

17 $\sqrt{5}$ の小数部分を a とするとき、 $a(a+4)$ の値として正しいものを 1～5 から一つ選べ。

- 1 0.84
- 2 1
- 3 2.25
- 4 12
- 5 $5+4\sqrt{5}$

18 内角の和が 1800° になる正多角形の一つの外角は何度か。1～5 から一つ選べ。

- 1 18°
- 2 24°
- 3 30°
- 4 36°
- 5 45°

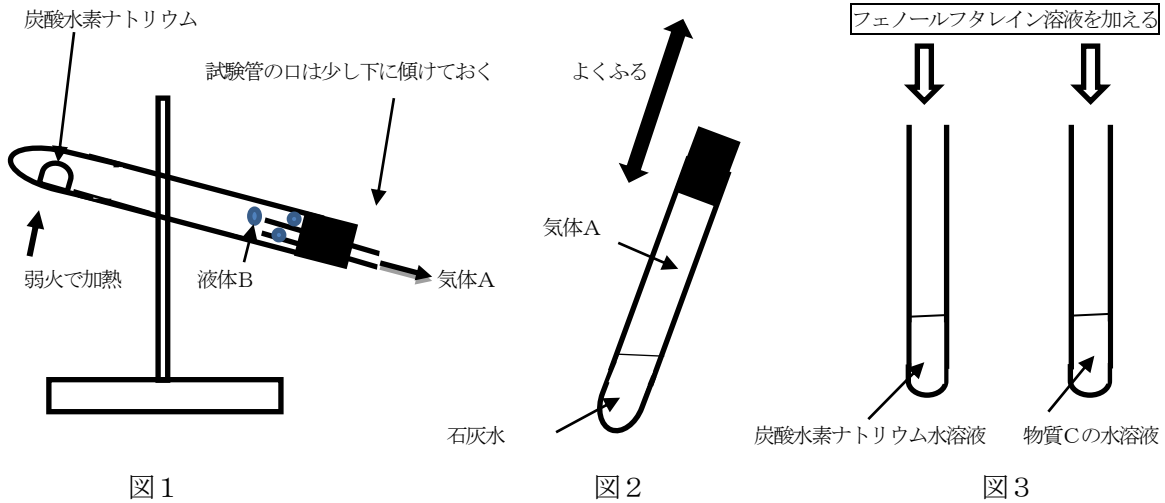
19 A, B, C, D, Eの5人が横一列に並んだとき、AとBが隣り合う並び方は何通りになるか。
1～5から一つ選べ。

- 1 6通り
- 2 20通り
- 3 24通り
- 4 48通り
- 5 60通り

20 次の各文のうち、小学校学習指導要領（平成20年3月告示）の算数の第4学年の目標に記述されている内容として正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

- 1 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。
- 2 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。
- 3 数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする。
- 4 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。
- 5 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。

21 次の図1のように、炭酸水素ナトリウムを乾いた試験管の中に入れ弱火で加熱すると、気体Aが発生するとともに、試験管内側の口のあたりに液体Bがついた。また加熱後、試験管の中には白い固体の物質Cが残った。次の文は、気体A・液体B・物質Cをそれぞれ、図2、図3等の方法を使って調べた内容について述べたものである。文中の（ア）～（オ）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。



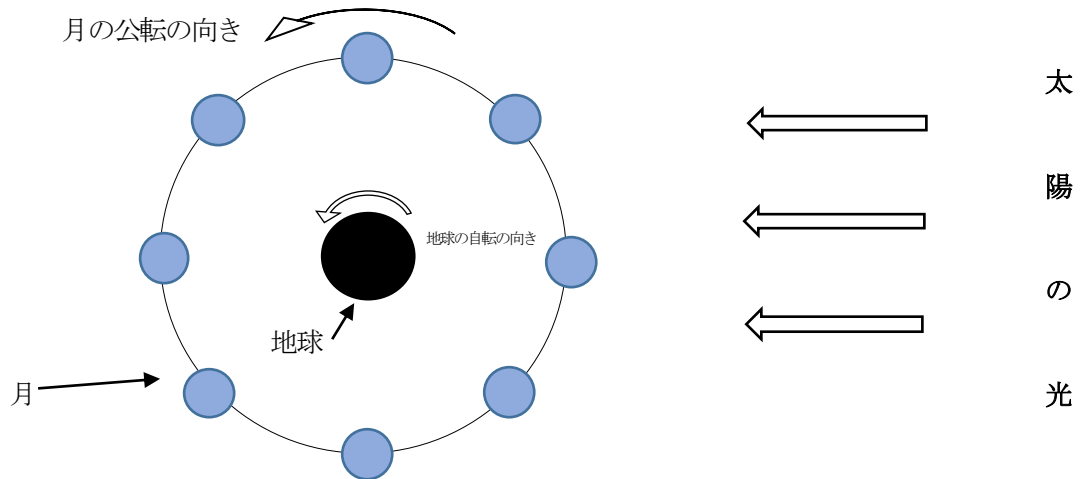
発生した気体Aを（ア）法で試験管に集め、図2のように石灰水を入れてよくふり混ぜたところ白くにごった。このことから発生した気体Aは（イ）であるとわかった。

次に、試験管内側の口のあたりについた液体Bに青色の塩化コバルト紙をつけるとうすい赤色（桃色）に変化した。このことからこの液体Bは（ウ）であるとわかった。

さらに、炭酸水素ナトリウムと試験管の中に残った白い固体の物質Cを同量、それぞれ別の試験管にとり、図3のように水でとかし、水へのとけ方と水溶液の性質を調べると、物質Cは炭酸水素ナトリウムと比べて水に（エ）ことや（オ）性を示すことがわかった。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	水上置換	CO ₂	水	よくとける	アルカリ
2	水上置換	H ₂	エタノール	あまりとけない	酸
3	上方置換	CO ₂	水	あまりとけない	アルカリ
4	上方置換	H ₂	エタノール	あまりとけない	アルカリ
5	水上置換	CO ₂	水	よくとける	酸

- 22 次の図は地球の北極側から見た時の月の公転の様子である。地球と月、太陽とが図のような位置関係にあるとき、次の文の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5 から一つ選べ。



大阪で、空を見上げて見えた月の形や方角について調べた。

日の入りの頃に、ある方角の空を見上げると満月が見えた。この方角は（ア）である。

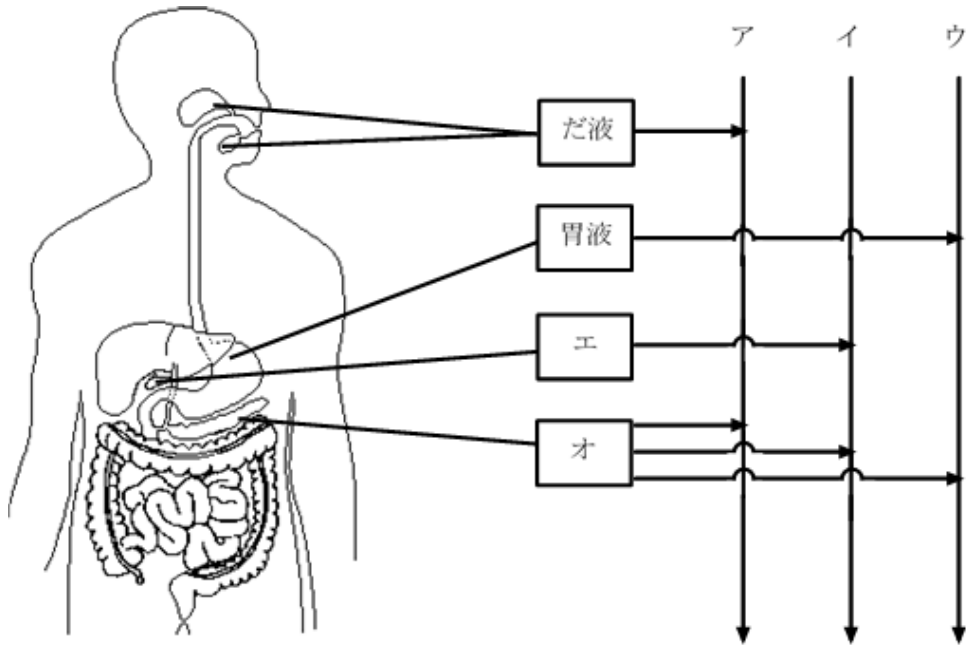
真夜中0時頃に、ある方角の空を見上げると下弦の月が見えた。この方角は（イ）である。

日の出の頃に、南の空を見上げると（ウ）が見えた。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	西	東	下弦の月
2	東	西	上弦の月
3	東	東	下弦の月
4	西	西	上弦の月
5	東	東	上弦の月

23 次の図は、ヒトの消化に関する器官から出されているだ液、胃液、すい液、胆汁が食物中のタンパク質、デンプン、脂肪を消化する過程を模式的に示したものである。ア～ウはタンパク質、デンプン、脂肪のいずれかの物質を、エ、オは胆汁、すい液のいずれかをあらわしている。

ア～オに入る語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5 から一つ選べ。



	ア	イ	ウ	エ	オ
1	タンパク質	デンプン	脂肪	すい液	胆汁
2	デンプン	脂肪	タンパク質	胆汁	すい液
3	脂肪	タンパク質	デンプン	すい液	胆汁
4	タンパク質	デンプン	脂肪	胆汁	すい液
5	デンプン	脂肪	タンパク質	すい液	胆汁

24 次の各文は、小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）理科の各学年の「目標」に関する記述である。それぞれを目標としている学年の正しい組合せはどれか。1～5 から一つ選べ。

ア 物の溶け方、振り子の運動、電磁石の変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究したりものづくりをしたりする活動を通して、物の変化の規則性についての見方や考え方を養う。

イ 人の体のづくり、動物の活動や植物の成長、天気の様子、月や星の位置の変化を運動、季節、気温、時間などに関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、人の体のづくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きについての見方や考え方を養う。

ウ 生物の体のづくりと働き、生物と環境、土地のづくりと変化の様子、月と太陽の関係を推論しながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のづくりと変化のきまり、月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。

エ 物の重さ、風やゴムの力並びに光、磁石及び電気を働かせたときの現象を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、それらの性質や働きについての見方や考え方を養う。

オ 植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	第6学年	第3学年	第6学年	第4学年	第5学年
2	第5学年	第4学年	第6学年	第3学年	第5学年
3	第6学年	第3学年	第5学年	第4学年	第6学年
4	第6学年	第4学年	第6学年	第3学年	第5学年
5	第5学年	第4学年	第5学年	第3学年	第6学年